



歴史を伝えるまつ並木と現代の暮らしが調和する まつ並木エリア

市の天然記念物であるまつ並木と、住環境が調和した生垣などの緑の多い景観が特徴です。

A 連続するまつ並木

B まつ並木と調和する住環境

写真提供
1 山本國男氏

まつ並木エリアの景観の特徴

A 連続するまつ並木

A-1 細やかなリズムで植えられたマツ

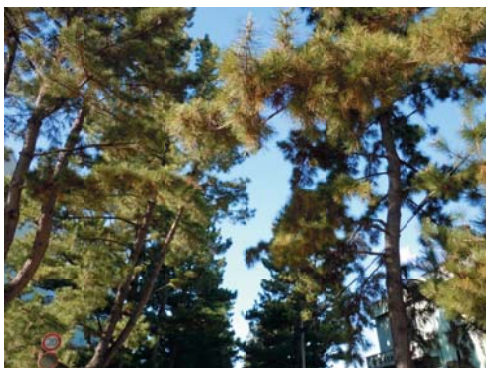


細やかなリズムで植えられたマツが規則正しく並び、美しく風格のあるまつ並木となっています。

より良い景観形成へ

枯れたり倒れたマツは補植して、松並木の連続性が途切れないよう適正に管理しましょう。

A-2 まつ並木による囲まれ感



上空を見上げるとマツに囲まれている印象を受けます。マツに切り取られた空にも道があるようです。

より良い景観形成へ

景観阻害となる電線類は、無電柱化を進めましょう。

A-3 まつ並木の演出（見せ方）



石垣や足元灯、茶色の道路舗装や冬季の「こも巻き」など、まつ並木の歴史的な景観に磨きをかける修景整備や手入れがされています。

より良い景観形成へ

まつ並木の雰囲気と調和する看板とするなど、景観にさらに磨きをかけましょう。

旧東海道沿いに連続するまつ並木は、風格ある歴史的な景観です。沿線のまちなみも、まつ並木の雰囲気と調和する落ち着いた住環境となっています。

A-4 囲まれ感から山アテへ



西から東へ緩やかな坂を登りきったところで視界が開け、その先の山に向けて山アテがされています。

より良い景観形成へ

電線類の無電柱化や看板などの集約、建物の高さなど、山の眺めを阻害しないようにしましょう。

B まつ並木と調和する住環境

B-1 まつ並木と現代のくらしの調和



まつ並木の連続性を損ねることなく、道路と鉄道の交差部の安全を確保しています。

より良い景観形成へ

安全で使いやすくそして美しい景観となるような工夫を、まちの随所で考えていきましょう。

B-2 緑が連続する接道部のしつらえ



まつ並木のマツと住宅の生垣などが一体となった緑が連続します。

より良い景観形成へ

マツの補植や、生垣などを設けることで、緑の連続性を保つようにしましょう。

まつ並木エリアで景観のスパイスとなっているポイントを集めました。実際に探してみても、全体の景観にどのような効果や印象を与えているか考えてみましょう。

景観のスパイス

まつ並木エリア



①十王堂



地域が共同で管理して、代々受け継がれてきた空間です。

②十王堂裏山のお稲荷さん



稲荷社の他、若宮社の跡地や石神さんなど数々の信仰の場が残り、今も大切にされています。

③十王堂の裏山



山アテ、信仰の対象、子どもたちの遊び場となるなど、地域に関わりの深い山です。

④一里塚跡



かつては一里塚として榎が植わっていました。地名も今は一里山です。

⑤藤川唯一の麦殻の葺屋根



大切に使われてきたのが伝わってくる、歴史を感じさせる風格あるたたずまいです。

⑥旧東海道沿いの緑



マツや庭木など道際の緑が多いのが特徴です。高札場風の掲示板が風情を高めます。

⑦遠くを望める場所



まつ並木から北側を覗くと開放感のある山綱川流域の豊かな田園風景が広がります。

⑨吉良道 道標・境松



地名に残る境松は吉良道との分岐を示します。道標や舗装のしつらえが歴史を伝えます。

⑧吉良道分岐点の観音様



赤い屋根が特徴です。今も手入れされて大切にされているのが伝わります。

⑩むらさき麦畑（5月）



松尾芭蕉もきっと見たであろう「むらさき麦」の景観です。

⑪駒の爪



馬のひづめの形に似ていることから名づけられ、地名にもなっています。

⑫山綱川



かつてはガラ紡の水車が並んでいました。水と緑を身近に感じられる場所です。

写真提供 1 ホームページ「まちもよう」